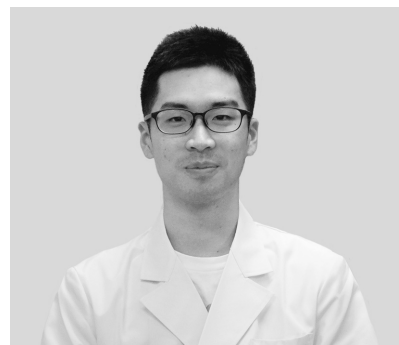


社会貢献めざして常に進化

東海大学付属研究所の一つである総合医学研究所では、大規模総合大学の特徴を最大限に生かし、医学部のみならず、他学部・他付属研究所などのほか、広く学外研究機関の研究者とも連携してゲノム・再生・創薬の3部門を中心とした橋渡し研究(Translational research)が行われています。



東海大学医学部学部長 坂部 貢



中山正光氏



木村啓志氏



酒井大輔氏



秦野伸二氏

多彩な人材が融合する場

出席者
安藤 潔 教授(総合医学研究所長)
後藤信哉 教授(循環器内科)
喜多理王 教授(理学部物理学) マイクロ・ナノ研究開発センター所長
秦野伸二 教授(分子生命科学)
酒井大輔 准教授(整形外科)
木村啓志 准教授(工学部機械工学科)
中山正光 大学院生(医学研究科 先端医学専攻)

ビジネス的発想で社会実装へ

野の主な領域を担当しており、今後は力をいれている上記の3部門に加えて、新興感染症対策も考慮した感染制御等、医学部が実施している最先端の医学研究もさらに導入し、広い範囲の研究テーマを構成したいと考えています。

最先端の医学研究をリードする研究所を目指して

各研究ユニットには、多方面の専門家が関わるような仕組みを備えており、異なるユニット間での共同研究を実施する環境も発展させたいと思っています。

また、総合医学研究所は、従来通り取り組むほかに、日常の臨床業務で研究に時間を割くことのできない若手臨床医にも一定期間研究活動ができるような各臨床領域と直結した研究の場となることを望みます。

なお、本学では医学部および付属病院内に臨床研究に関する利益相反の管理室を設けておりますが、現在は臨床研究実施中のモニタリング機能をも有する監査室も加えて、より透明性の高い環境下での医学研究が遂行されています。引き続き、総合医学研究所が広く国民に信頼される研究所となり、所内で行われている高いレベルの研究内容を社会に発信できるようにしたいと考えています。

喜多 過去に脳神経外科の医師と脳動脈瘤の発生と破裂のメカニズムを調べる共同研究を行ったことがあります。これは血液の流れと赤血球形成の関連を調べ、さらに血管壁の性状も調べるといった複数の要素を含む研究でした。生化学を専門とする方と異分野融合のメンバーで取り組みました。その研究テーマの意義は明確で、私はレオロジーや分子物理学の専門家としてチームに貢献できるように努めました。その過程で

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 過去に脳神経外科の医師と脳動脈瘤の発生と破裂のメカニズムを調べる共同研究を行ったことがあります。これは血液の流れと赤血球形成の関連を調べ、さらに血管壁の性状も調べるといった複数の要素を含む研究でした。生化学を専門とする方と異分野融合のメンバーで取り組みました。その研究テーマの意義は明確で、私はレオロジーや分子物理学の専門家としてチームに貢献できるように努めました。その過程で

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 過去に脳神経外科の医師と脳動脈瘤の発生と破裂のメカニズムを調べる共同研究を行ったことがあります。これは血液の流れと赤血球形成の関連を調べ、さらに血管壁の性状も調べるといった複数の要素を含む研究でした。生化学を専門とする方と異分野融合のメンバーで取り組みました。その研究テーマの意義は明確で、私はレオロジーや分子物理学の専門家としてチームに貢献できるように努めました。その過程で

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

ヒト・モノ・カネの動きが重要

安藤 木村 先生、若手研究者や学生と共同研究してきた経験の中から、問題点、あるいはフラグとなる事柄をお話してください。

木村 私は工学部の機械工学科に所属しております。最近、マイクロ・ナノ研究開発センターの成果でスタートアップ企業を設立したので、ビジネス的な視点から、医学部が実施している最先端の医学研究もさらに導入し、広い範囲の研究テーマを構成したいと考えています。

喜多 大学として学部生や大学院生がいます。若い時から研究を行うには、ある程度は、共同研究がなければいけません。共同研究がうまく回っていくためには、ヒト・モノ・カネの動きが重要です。

喜多 大学として学部生や大学院生がいます。若い時から研究を行うには、ある程度は、共同研究がなければいけません。共同研究がうまく回っていくためには、ヒト・モノ・カネの動きが重要です。

喜多 大学として学部生や大学院生がいます。若い時から研究を行うには、ある程度は、共同研究がなければいけません。共同研究がうまく回っていくためには、ヒト・モノ・カネの動きが重要です。

喜多 大学として学部生や大学院生がいます。若い時から研究を行うには、ある程度は、共同研究がなければいけません。共同研究がうまく回っていくためには、ヒト・モノ・カネの動きが重要です。

喜多 大学として学部生や大学院生がいます。若い時から研究を行うには、ある程度は、共同研究がなければいけません。共同研究がうまく回っていくためには、ヒト・モノ・カネの動きが重要です。

喜多 大学として学部生や大学院生がいます。若い時から研究を行うには、ある程度は、共同研究がなければいけません。共同研究がうまく回っていくためには、ヒト・モノ・カネの動きが重要です。

喜多 大学として学部生や大学院生がいます。若い時から研究を行うには、ある程度は、共同研究がなければいけません。共同研究がうまく回っていくためには、ヒト・モノ・カネの動きが重要です。

喜多 過去に脳神経外科の医師と脳動脈瘤の発生と破裂のメカニズムを調べる共同研究を行ったことがあります。これは血液の流れと赤血球形成の関連を調べ、さらに血管壁の性状も調べるといった複数の要素を含む研究でした。生化学を専門とする方と異分野融合のメンバーで取り組みました。その研究テーマの意義は明確で、私はレオロジーや分子物理学の専門家としてチームに貢献できるように努めました。その過程で

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 過去に脳神経外科の医師と脳動脈瘤の発生と破裂のメカニズムを調べる共同研究を行ったことがあります。これは血液の流れと赤血球形成の関連を調べ、さらに血管壁の性状も調べるといった複数の要素を含む研究でした。生化学を専門とする方と異分野融合のメンバーで取り組みました。その研究テーマの意義は明確で、私はレオロジーや分子物理学の専門家としてチームに貢献できるように努めました。その過程で

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

喜多 理系の研究者であっても、自身の研究成果がシネマに結ぶ経験をとおしては、自分自身で研究テーマを申請し、論文も執筆しますが、自身の研究成果が市場に出て、世の役に立つまでが、ネーミングのハードルが高いのです。医理連携の推進は、研究成果の社会実装を目指すという観点では、出口や社会的必要

「広く社会を見つめて」5分野14氏 研究現場で疾患治療法確立に挑む

肝臓・腎臓病学研究部門

■相田豊(部門長/基礎医学系 先端医療科学 教授) 「臓器線維化の病態解明と新たな診断・治療法の確立」 肝臓線維化は、肝臓の機能が低下し、最終的に肝硬変や肝臓がんにつながる。相田氏は、肝臓の線維化を抑制する新たな治療法を開発することを目標としている。

■松本浩二(基礎医学系 生体構造機能学 教授) 「ヒトの腎臓(ポドサイト)の傷害に起因する不全」 腎臓は、体内の余剰物を尿に排泄し、体の状態を一定に保つ働きをしている。腎臓の中のタコ足細胞(ポドサイト)は、腎臓の傷害の中心となる。松本氏は、腎臓の傷害を抑制する新たな治療法を開発することを目標としている。

■駒田大峰(内科学系 腎・代謝内科学 准教授) 「骨代謝因子の調節」 骨代謝因子は、骨の形成と吸収を調節する。駒田氏は、骨代謝因子の調節を改善する新たな治療法を開発することを目標としている。

■福田篤(総合医学系 特任講師) 「ヒトの生殖系細胞の分化」 ヒトの生殖系細胞は、精子や卵子を生じる。福田氏は、生殖系細胞の分化を改善する新たな治療法を開発することを目標としている。

■長川政徳(外科学系 泌尿器科学 講師) 「リソソーム病の診断と治療」 リソソーム病は、細胞内の廃棄物を処理する能力が低下する病気。長川氏は、リソソーム病の診断と治療を改善する新たな治療法を開発することを目標としている。

■李金媛(内科系 血液腫瘍学 教授) 「造血系がんの病態解明と治療」 造血系がんは、血液や骨髄の細胞ががん化する病気。李氏は、造血系がんの病態解明と治療を改善する新たな治療法を開発することを目標としている。

血液腫瘍学研究部門

■八幡崇(基礎医学系 先端医療科学 准教授) 「幹細胞の分化」 幹細胞は、あらゆる種類の細胞を生じる。八幡氏は、幹細胞の分化を改善する新たな治療法を開発することを目標としている。

■中川卓(基礎医学系 分子生命科学 講師) 「造血系がんの病態解明と治療」 造血系がんは、血液や骨髄の細胞ががん化する病気。中川氏は、造血系がんの病態解明と治療を改善する新たな治療法を開発することを目標としている。

再生医療学研究部門

■浅原之(部門長/基礎医学系 先端医療科学 教授) 「再生医療の応用」 再生医療は、損傷した組織や臓器を再生させる。浅原氏は、再生医療の応用を改善する新たな治療法を開発することを目標としている。

■永田大(内科学系 神経内科学 教授) 「神経変性疾患の診断と治療」 神経変性疾患は、神経細胞が徐々に死んでいく病気。永田氏は、神経変性疾患の診断と治療を改善する新たな治療法を開発することを目標としている。

■関根佳織(基礎医学系 生体構造機能学 講師) 「心臓の再生」 心臓は、体の中心臓器で、損傷すると回復しない。関根氏は、心臓の再生を改善する新たな治療法を開発することを目標としている。

■今野規(部門長/基礎医学系 分子生命科学 教授) 「生命情報学を活用した疾患関連遺伝子の探索」 生命情報学は、遺伝子の情報を解析する。今野氏は、生命情報学を活用した疾患関連遺伝子の探索を改善する新たな治療法を開発することを目標としている。

■大塚人(基礎医学系 分子生命科学 教授) 「ゲノム編集技術の応用」 ゲノム編集技術は、遺伝子の情報を編集する。大塚氏は、ゲノム編集技術の応用を改善する新たな治療法を開発することを目標としている。

■岡田隆(総合医学系 特任講師) 「がんの診断と治療」 がんは、細胞が異常に増殖する病気。岡田氏は、がんの診断と治療を改善する新たな治療法を開発することを目標としている。

ゲノム解析研究部門

■中川卓(基礎医学系 分子生命科学 講師) 「ゲノム解析技術の応用」 ゲノム解析技術は、遺伝子の情報を解析する。中川氏は、ゲノム解析技術の応用を改善する新たな治療法を開発することを目標としている。

■八幡崇(基礎医学系 先端医療科学 准教授) 「幹細胞の分化」 幹細胞は、あらゆる種類の細胞を生じる。八幡氏は、幹細胞の分化を改善する新たな治療法を開発することを目標としている。